

第59回関西財界セミナー

# 分科会議長報告

# 第1分科会 「コロナ共存下での国際社会と経済政策」

## 第1セッション論点

- ・コロナによって先鋭化した国際社会・国際経済の諸傾向をどのように捉えるか。
- ・想定されるビジネスリスクをチャンスに結び付けるために必要な対応とは。

## 第2セッション論点

- ・コロナによって明らかになった日本の(各国の)経済政策の弱点はなにか。
- ・今後10年を見据えて、日本はどのような経済政策を取るべきか。

## 議論の総括

- ・中国の台頭と、高まる日本の安全保障体制強化の必要性
- ・社会課題の解決を地道に進め、ニュー・ノーマルを切り拓く
- ・日本が抱える諸問題が世界でも拡大している危機意識を共有

# 第2分科会「日本の創造的復興 ～ Green/Digital Recovery ～」

## 第1セッション論点

- わが国が目指すべき「Green Recovery」戦略
- 「Green Recovery」実現に向けた企業・経済界の役割

## 第2セッション論点

- わが国が目指すべきデジタル社会像と創造的復興戦略
- 戦略の実現に向けた課題、企業・経済界の役割

## 議論の総括

- わが国が目指すべき「Green Recovery」戦略として、電源の低炭素化、産学官連携による革新的な技術開発と社会実装、需要の電化を同時かつ強かに推進していく。
- わが国デジタル化の遅れを逆手に捉え、文化・歴史・伝統といった非デジタル領域をも包含した日本流のデジタル社会の実現を、産学官の密な連携のもと、経済界としても産業横断的に推進していく。
- 2025年には「大阪・関西万博」が控えている。脱炭素社会の在り方や持続可能なライフスタイルを世界に発信する好機と捉えるとともに、デジタル化による創造的復興の実験場として有効活用すべき。

## 第3分科会 「これからの国と地方のあり方を考える」

### 第1セッション論点

- ・成長の核が東京以外に複数存在する「分散型社会」のあり方
- ・その方法論としての国土政策・経済政策等の政策、企業経営

### 第2セッション論点

- ・関西で実現したい施策と必要な権限移譲・統治機構改革
- ・関西で必要な広域行政

### 議論の総括

- ・わが国の持続的成長・リスク分散のため、成長の核が東京の他にブロック単位で複数存在する「分散型社会」の構築が必要。各ブロックが地域経営の主体として必要な権限を保持できる地方分権改革を進め、道州制も含めた議論を行うべき。
- ・関西はアジアとの交流や万博の成果を社会実装に繋げる等により、成長の核となり首都機能補完の役割も果たす必要。そのため、関西広域連合による広域行政を進化させ、権限移譲や規制緩和、地方分権特区の実現を目指していく。

# 第4分科会 「ニューノーマルにおける働き方の質の変革」

## 第1セッション論点

- ・コロナ禍を受けた各社の対応と課題
- ・コロナ禍で加速した変化と、コロナ禍で前提が変わったもの
- ・経験を踏まえ、変えてはいけないものと対応すべき変化

## 第2セッション論点

- ・受け入れるべき変化や多様化(≡ニューノーマル)とは何か
- ・働き手の多様化に対応する日本型雇用の変容
- ・働き方の変化を質の変革へと高める組織運営のカギは何か

## 議論の総括

- ・コロナ禍は、デジタル化の進展と相まって働き手の価値観の多様化や日本型雇用の変容を加速化。企業は、理念と覚悟をもって、レジリエントな組織を目指し社会の安定と発展に寄与すべき。
- ・変化への対応を、生産性向上に資する働き方の質の変革に昇華させるため、組織運営の担い手であるミドル層の役割を再評価し、能力の開発や発揮に向けた支援が重要となる。

# 第5分科会 「With/Afterコロナ時代の集客・誘客戦略」

## 第1セッション論点

- ・コロナ禍でのツーリズムの評価
- ・With/Afterコロナ時代における新しいツーリズム戦略の創出
- ・DX時代に観光産業・地域が備えるべきこと

## 第2セッション論点

- ・With/Afterコロナ時代における関西広域での集客・誘客
- ・2025大阪・関西万博開催に向けて取り組むべきこと

## 議論の総括

- ・With/Afterコロナ時代の集客・誘客は、大きな変革を迫られている。安全・安心、サステナブルを基本として、DXやデータ利活用により、関西独自の魅力を活かしつつ、ウェルネス、ワーケーションなど新たなツーリズムを創造していく。
- ・2025年大阪・関西万博は好機。関西ならではの歴史、文化、親しみを活用しながら、何をレガシーとして残すか、関西ブランドづくり等の目標を関西全域で共有する。
- ・万博において、官民連携においてデータ利活用、都市OS、DX、次世代モビリティ、カーボンニュートラルへの対応などを実証し、その実装に向けて関西のみならず、瀬戸内、西日本とも連携していく。

# 第6分科会 主な論点と議論の結果

## 第1セッション論点 (テーマ: コロナが浮き彫りにした日本人、日本企業、日本社会の姿)

- ・コロナ禍が引き起こしたものとは？
- ・コロナを契機として、日本が特に変えるべきこととは何か？

## 第2セッション論点 (テーマ: コロナ禍後の未来とその萌芽)

- ・我々が創りたい未来とは？
- ・そのために我々は、どう変えるべきか？

## 議論の結果

- ・シリコンバレー、台湾の現状を伺い、日本人の特性を再認識  
(集団の尊重／調和を重視／均一性／熟慮を美德／失敗をしないことが重要)
- ・今後日本が変わっていくためには特に、多様性の受け入れや失敗の許容が必要ではないか
- ・日本人が「できなさ」を意識・受容することから、ダイバーシティがはじまる
- ・変わらざるを得ない世の中で、何をどう変える「べき」なのか、言葉を豊かに定義することが大切
- ・我々企業人が次の世代のためにできることは、環境に身を委ねず、各々が考え、行動を起こすこと